



那珂川町の文化財

(Ⅱ)

1983年3月31日

那珂川町教育委員会

は　じ　め　に

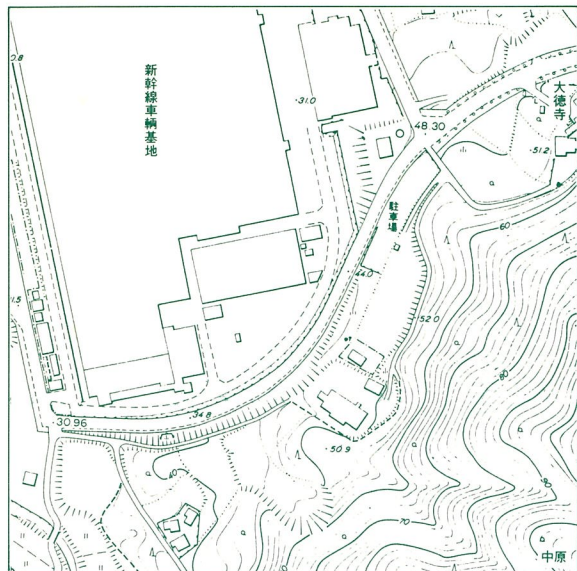
前回、那珂川町内の遺跡の分布を「那珂川町の文化財(I)」として刊行しましたが、今回から、それぞれの遺跡・天然記念物・民俗資料について順次刊行していきたいと思います。

本書は、古代編として町内の主要な遺跡・遺物についてその概要を縄文時代から古墳時代まで通史的にならべて解説しています。特に那珂川町は前方後円（方）墳が密集しており、古い古墳も数多くあります。ちょうどこの時期は、日本の国家統一の時期にあたり、当時のようすを知る手がかりが数多く残っている点で全国的にみても重要な歴史的特徴をもった地域と言えます。従って本書でも古墳時代のはじめごろを主にし、個別の古墳の解説を多く記載しました。又、町内にはいろんな史跡が残っており、それらを探索するコース例を裏表紙に記載しました。神功皇后が開いたといわれる裂田の溝（さくたのうなで）を中心に、所要時間2時間のコースです。自然を楽しみながら史跡を探訪されてはいかがでしょうか。

尚、本書中で各項の頭に付けた番号は分布地図記載の番号で、所在地が複数に渡るときはその中心的な位置の小字名を所在地として記載しました。

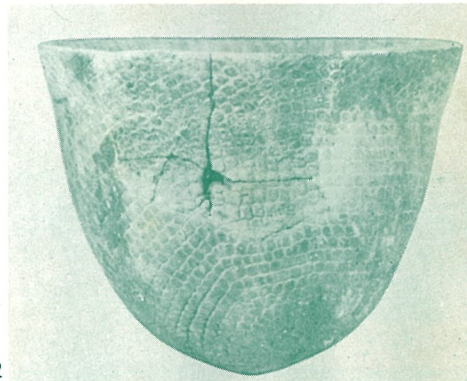
本書が郷土の歴史・文化を知る資料となり、よりよい町づくりのための一助にでもなれば幸いに思います。

縄 文 時 代

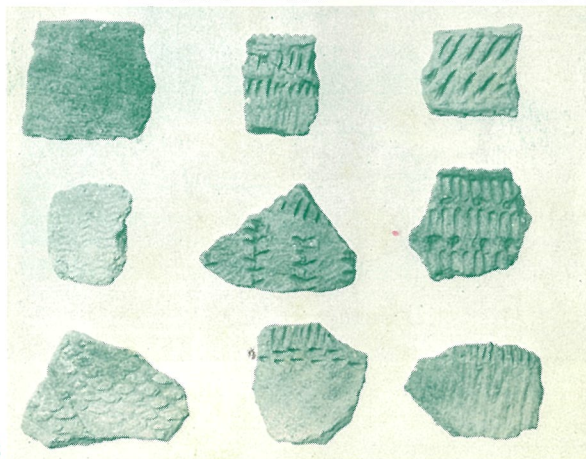


1

この那珂川町では縄文時代早期にすでに人が住んでいた形跡が認められます。ほとんど丘陵地で生活を営んでいたらしく、梶原川にそった丘陵地で縄文土器の破片や石器などが見つかっています。調査された遺跡で代表的なものが深原遺跡で、現在新幹線の車両基地のあたりです。(1)は石組の炉址で、(2)はこの遺跡から発見された土器、(3)は観音山麓で採集した縄文土器片です。この時代は、狩猟を主としており、きまった住居を持たずに(1)のような炉を囲んだキャンプ生活を営んでいたものと思われる。



2



3

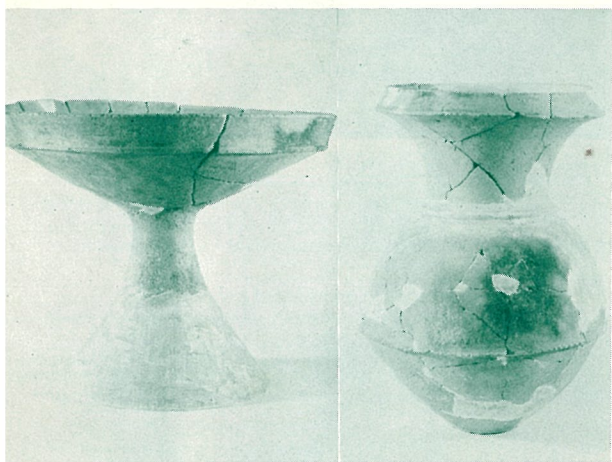
弥生時代 (2200～1800年前)

弥生時代の特徴的なことは稲作の開始です。これによって人々は定住するようになり、住居が造られます。また、農作業をするために多くの人が協力しあう必要があり、それまでの人間関係がより大きく、強固なものとなっていったでしょう。さらに米がたくさんとれるようになると、余った米を貯えることができ、その貯えがたくさんできると稲の耕作はせず、祭事に専念したり、土器作りに専念したりする人間ができてきたと思われます。これらは、たくさんの甕棺墓のうちごく一部から宝物が多量に出土したり、縄文時代に比べていろんな機能をもった様々な形の土器が作られていることなどからもうかがえます。

那珂川町でも、この時代の全般に渡って遺物が出土しています。(4)は板付式と呼ばれる貯蔵用の小壺(前期)、(5)は食べ物を盛る高坏、貯蔵用の壺(後期)、(6)は煮炊きに使った甕、鉢(前期)、です。また、この時代でも石器が多く使われ、(7)の石鏃や石斧、鼓具などが出土しています。



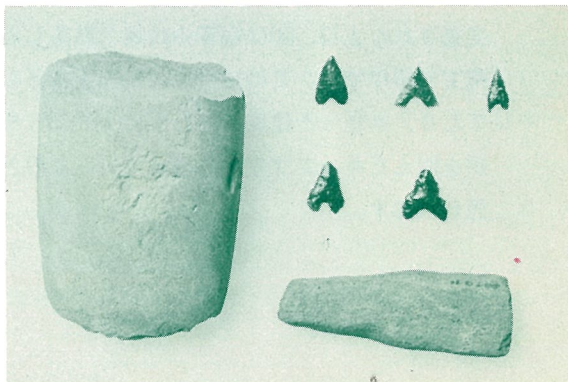
4



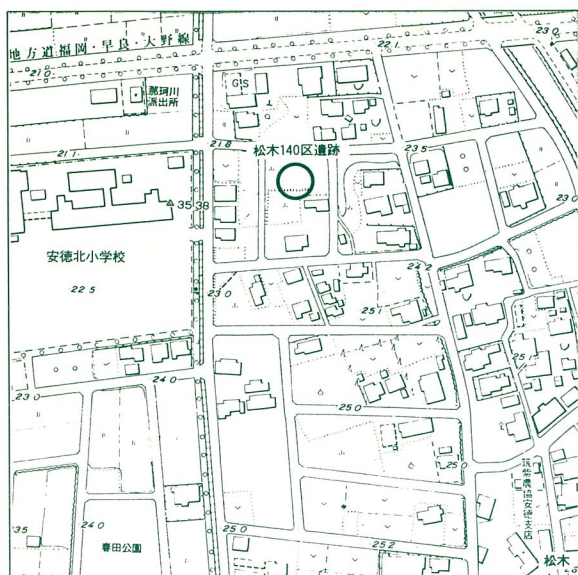
5



6



7



弥生時代の墓制

弥生時代の墓制には、石棺や木棺、甕棺などが使われましたが、なかでも北部九州でさかんに行われたのが甕棺墓でした。

甕棺墓は素焼の甕の口と口を合わせて中に遺体を入れ、土中に埋めるやり方のものが一般的で、なかには一つの甕で行い、その口を石や板で塞ぐものもあります。

那珂川町では、松木遺跡、今光遺跡が調査された代表的な例で、位置図は松木遺跡を記載しています。

写真(8)は松木遺跡の甕棺墓群で、二列にきちんと並んでいるのがわかると思います。(9)は今光遺跡の41号甕棺墓です。小さな壺で蓋をした状態の写真で、この壺にはXマークがついており、何のためのものか興味深いものです。



8



9



前方後円(方)墳の分布

前方後円墳とは鍵穴形の特殊な姿をした古墳で、日本で独自に造り出されたものです。この形がどういう風にして出来あがったのかいろいろ考えられますが、円墳と方墳がくっつけられたとか、円墳に葬送儀礼を行う台状の場所を付けたのが発達して古墳の形になったとか言われています。この前方後円(方)墳を造るには、すぐれた土木技術が必要ですし、濠を掘ったり土を積んだりするのにたくさんの労働力が必要です。ちなみに大阪府の仁徳陵(推定)は全長400mを超すが国最大の古墳ですが、これを造るのに1日千人が働いたとして4年近くかかったであろうという推定がされています。この他に供え用の土器を焼いたり、埴輪を作ったり、飾り物を作ったりする人々も必要です。従って、これらの全てを支配できる首長しか造れませんし、逆にこの古墳を造れることが大王の権威の象徴となっていたわけです。

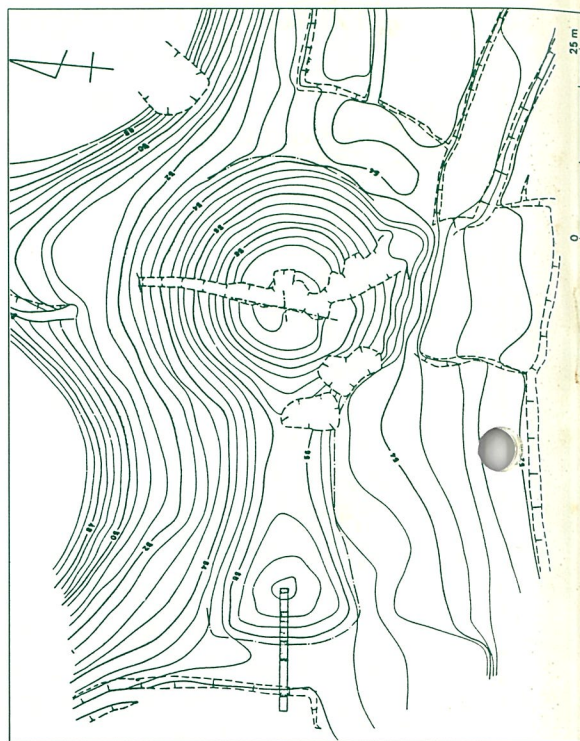
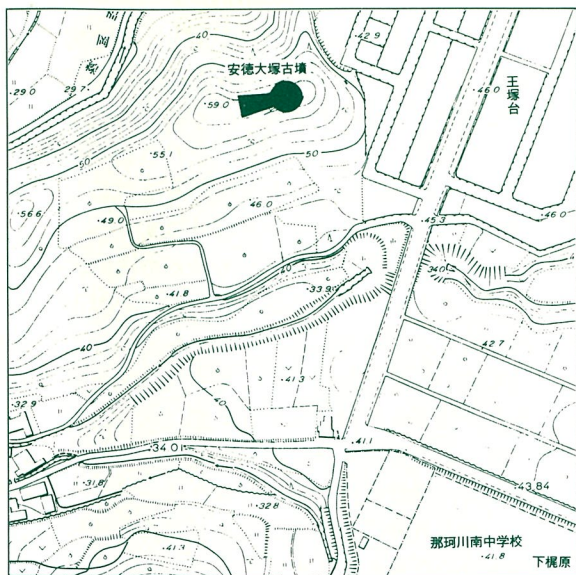
このような前方後円墳が最初に出現し、数多く、また、規模の大きなものがあるのは畿内地方で、それが各地方に伝えられていくわけですが、その伝わり方に畿内勢力の拡大のようすをみることができ、古事記や日本書紀にある「国盗り」の神話などはこの時代を反映してできあがったものと思われます。すなわち、日本の国家統一の時期をよく示してくれるのが前方後円墳の分布であり、また、これらはその地域の権力の盛衰をも示してくれます。

那珂川町内には9基の前方後円(方)墳があり、そのうち6基が現在のところ残っています。これらの古墳群是那珂川の中流域に集中して造られ、現状の行政区画を取り払ってみますと春日市や福岡市にもこの群に属する前方後円(方)墳があり、全部で16基に及ぶ大古墳群をなしています。このことは妙法寺2号墳・安徳大塚古墳の造られた4世紀後半から中原Ⅰ群1号墳の造られた6世紀中頃まで綿々と前方後円(方)墳が造られ続けたことを示しており、福岡平野はもちろん、ある時期にはもっと広く粕屋あたりにまで勢力を誇った大王がこの地域を中心に君臨していたことを物語っています。

以下、それぞれの古墳の概要を表にしてみました。

番号	名 称	墳 形	大きさ	築造時期	出土品、その他
1	老 司 古 墳	前方後円墳	90m	5 世紀初	竪穴系横口式石室、青銅鏡
2	浦 の 田 4 号 墳	〃	40m		円筒埴輪
3	観 音 堂 古 墳	前方後方墳	25m		
4	小 丸 1 号 墳	前方後円墳	25m		埴輪が出土 消滅
5	小 丸 2 号 墳	〃	25m		
6	妙 法 寺 2 号 墳	前方後方墳	18m	4 世紀後半	割竹形木棺、三角縁神獣鏡 消滅
7	妙 法 寺 1 号 墳	前方後円墳	26m		横穴式石室
8	大 万 寺 前 古 墳	〃	24m		横穴式石室
9	安 徳 大 塚 古 墳	〃	64m	4 世紀後半	粘土郭
10	貝 徳 寺 古 墳	〃	54m	5 世紀末	埴輪、周溝のみ
11	観音山中原Ⅰ群1号墳	〃	23.5m	6 世紀中	横穴式石室 消滅
12	ウ ト 口 古 墳	前方後方墳	30m		
13	日 拝 塚 古 墳	前方後円墳	47m	6 世紀前半	横穴式石室、装飾品、須恵器
14	下 白 水 大 塚 古 墳	〃	50m		土製人形
15	天 神 山 古 墳	〃	35m		横穴式石室
16	竹 ケ 本 古 墳	〃	26m		

あんとく おおつか
249 安徳大塚古墳



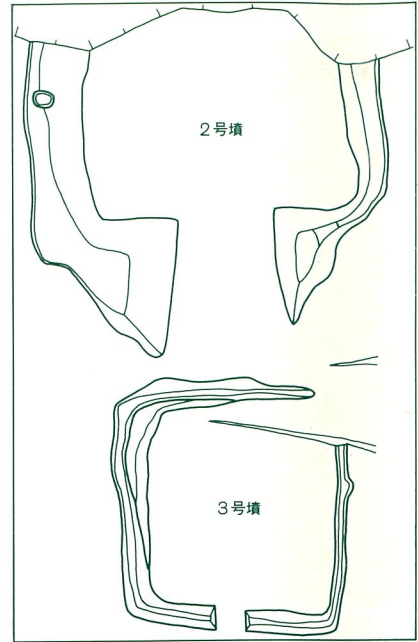
- 所在地 那珂川町大字下梶原字大塚
- 築造時期 4世紀後半

安徳大塚古墳は、平野の最奥の丘陵上でながめのよいところに造られた前方後円墳です。よく、その形を留めており、また、福岡平野では最も古いものとされていて、学術的にも非常に価値の高いものです。全長64m、濠部分を含めると81mの規模のもので、埴輪が出土していることから、当初は埴輪が古墳のまわりに立ち並んでいたことでしょう。

写真は、古墳の半分だけを伐採して撮影したもので、半分は林の中に隠れています。



みょうほうじ
187 妙法寺古墳群

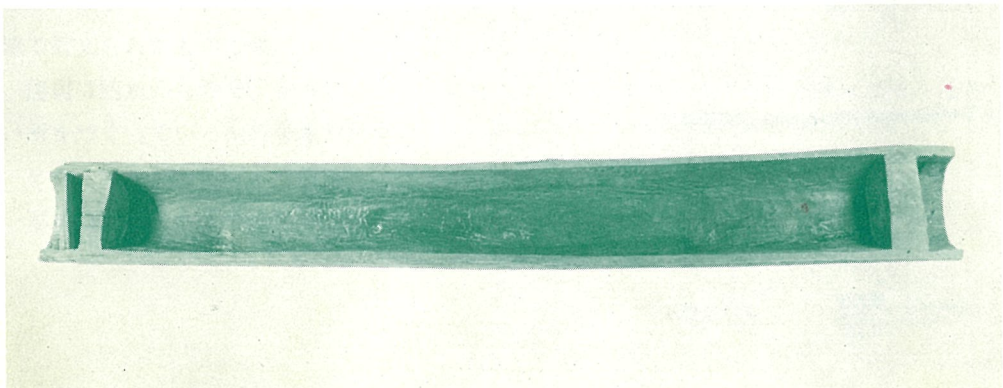


11

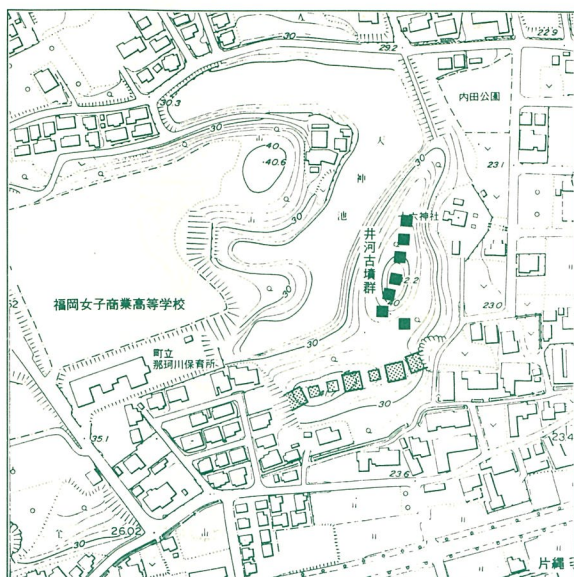
- 所在地 那珂川町大字恵子字妙法寺
- 築造時期 4世紀後半

妙法寺古墳群は、前方後円墳1、前方後方墳1、方形周溝墓1からなる古墳群です。このうち前方後方墳は三角縁神獸鏡(11)をはじめ重要な遺物が出土し、注目された古墳です。

また、この古墳のすぐ近くで割竹形木棺と呼ばれる木をくりぬいて作った棺が、保存状態が良かったため、そのままの形で発見されました。この形の木棺では、日本で一つしかなく、国宝級の出土品です。(12)



12



052 いごう 井河古墳群 063

- ・所在地 那珂川町大字片縄字井河
- ・築造時期 4世紀後半

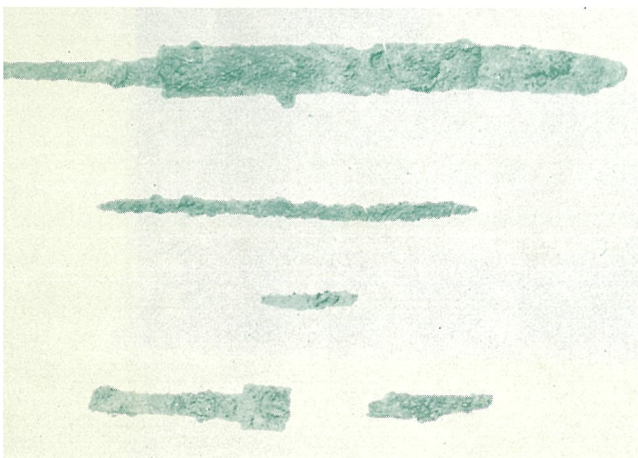
井河古墳群は、15基からなる古墳群で、学校建設に伴って7基を調査しました。その結果、すべて方墳で、死者を埋葬する施設が割竹形木棺という注目すべき事実がわかりました。割竹形木棺は、この地方の伝統的な埋葬施設とは異なり新しいやり方です。このやり方は、どこから入ってきたものでしょうか。新しい文化を持った人達がこの地に入って造ったお墓なのか、それとも在地の人達が新しい墓制を取り入れた結果なのか、非常に興味深い問題です。いずれにしても、この時期にこの那珂川町では、大きな社会的変動がおこっていたことは確かなようです。

このような遺跡は他に、炭焼古墳群、油田古墳群などがあります。

写真(13)は井河6号墳です。まわりに溝がめぐり、中央部に粘土で痕跡を残した割竹形木棺があります。古墳の大きさは10m四方のもので、右側は後世に削られてなくなっています。

写真(14)は本古墳群からの出土品で、剣・刀子・やりがんです。

13

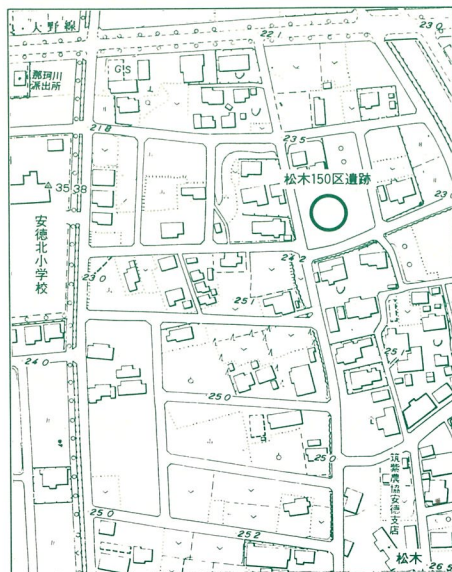


14

古墳時代

はじめ頃の住居

(約1700年前)



15



16

- 所在地 那珂川町大字松木字瀬戸口(150区)
- 時期 古墳時代前期～後期

これまで述べてきました古い古墳を造った人々は、どのような住居に住んでいたのでしょうか。それを知る良好な集落跡が松木遺跡で見つかっています。住居は全部で37軒が見つかりましたが、重なり合っている住居もあり、一度に37軒があったのではなく、何回か建て替えられたものです。

住居は四角のもので、4本ないし2本の柱穴があり、まわりにベッドと呼ばれる一段高い所をつくっているものもあります。

また、時代が少し新しくなると、住居内にカマドをもつ住居も現われます。

写真(15)は松木遺跡の全景、写真(16)は当時の人々が日常使用していた土師器です。

けいとくじ

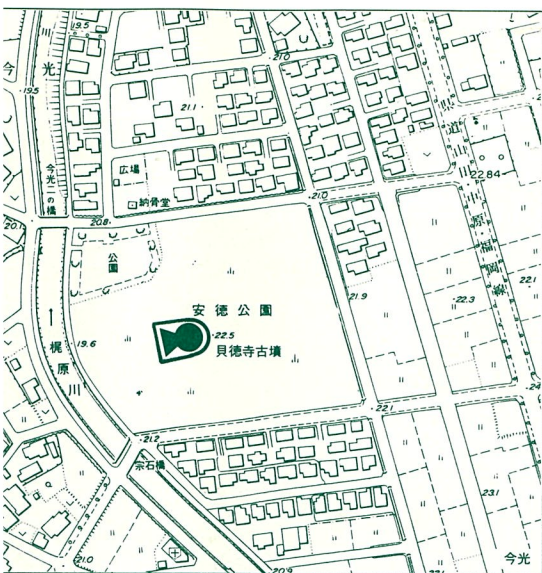
貝徳寺古墳

- 所在地 那珂川町大字今光字宗石
- 時期 5世紀末

現在、安德近隣公園の土中に埋れている前方後円墳です。築造当初は高い盛土があったと思われますが、永年の削平にあってその形は失われ、公園建設に伴って発掘調査を行った際にその周溝のみを発見したものです。全長54mを測り、福岡平野では比較的大きい規模のものです。

この周溝から、この付近では珍しい埴輪が見つかり注目されました。現在、この古墳は埋め戻して保存していますが、いつの日か再発掘して実物を見れるようにしたいものです。

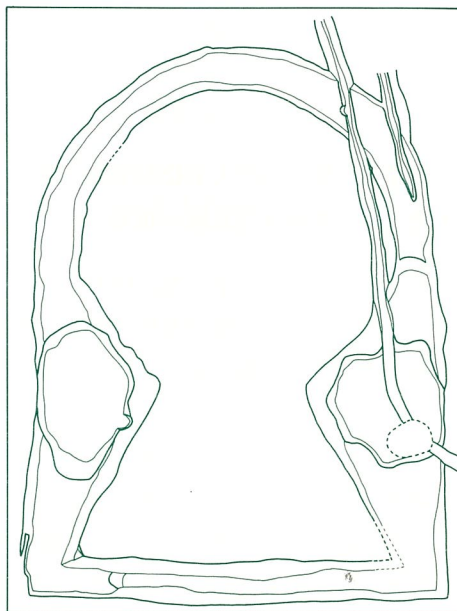
写真(17)は古墳の全景、写真(18)は出土した埴輪、下図は古墳の実測図を図化したものです。



17



18

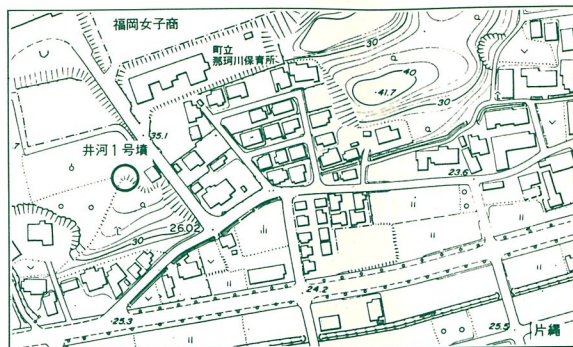


052 いごう 井河1号墳

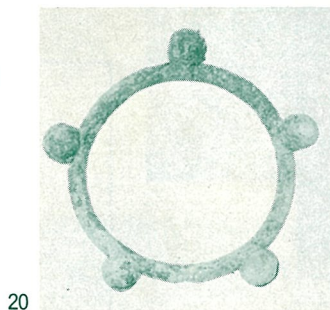
- 所在地 那珂川町大字片縄字今立
- 築造時期 5世紀後半

本古墳は直径18mの円墳で、主体部(死者を埋納する施設)は「堅穴系横口式石室」と呼ばれる堅穴式と横穴式との中間の形をしている石室です。石室の大きさは長さ4m、幅2mで、床には玉砂利が敷きつめられ、石室内全部が朱で赤く塗られていました。石室内の副葬品の出土位置から、少くとも3遺体がこの中に納められたと考えられます。

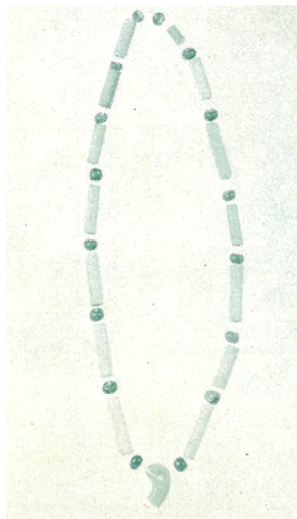
写真(19)は全景、(20)は鈴釧^{すずくしろ}と呼ばれる鈴が5つ付いた腕輪で、珍しい出土品です。(21)は首飾りで、管玉と丸玉を交互につないだもので、下部中央はガラス製の勾玉です。(22)は出土した直刀、及び鉄剣で、直刀の長いものは約90cmを測ります。



19



20



21



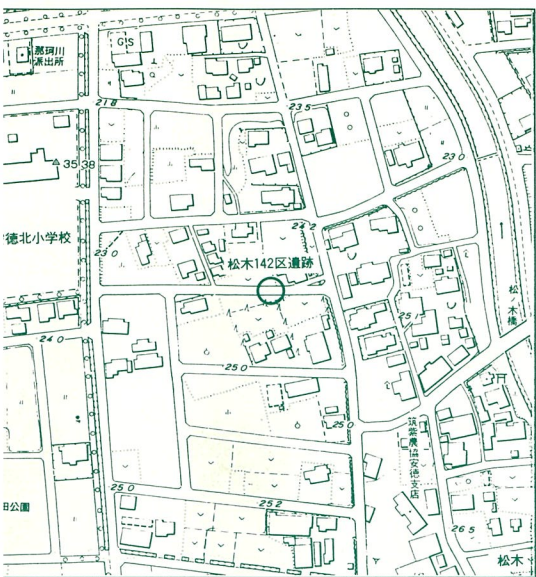
22

古墳時代終わり頃の住居 (約1400年前)

古墳時代の終わり頃の住居として、松木遺跡142区の住居址が上げられます。この時期の遺跡も松木・今光を主として存在しますが、那珂川の左岸にも野口遺跡のように住居が出現してくるようになります。この頃になると、住居址の中に大きなカマドが造られ、柱穴も4つのものが多くなります。

写真(23)は住居の全景で、下部にカマドが、また4つの柱穴がわかるといいます。この住居は、他の遺跡で発見される住居が重なり合っているのに対し、一軒が完全な形で発見されたので、教材として残すために「発泡ウレタン」で型取りを行いました。

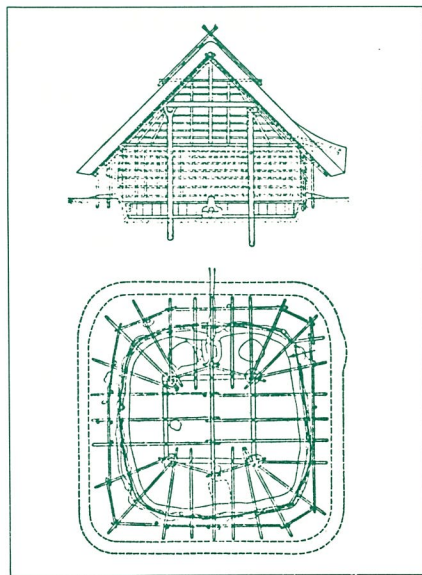
写真(24)は、当時使っていた日常容器(須恵器・土師器)で、いろんな器種があります。下図は住居の復元想定図です。



23



24



長野県平出遺跡第3号住居復元図
(「平出」による)

古墳時代終わり頃の古墳（群集墳）（6世紀後半～7世紀末）

古墳時代の終わり頃になると、今まで散発的で規模の大きい古墳が造られていたのに対し、直径が10m 前後の小規模古墳が多数、集中して造られるようになります。

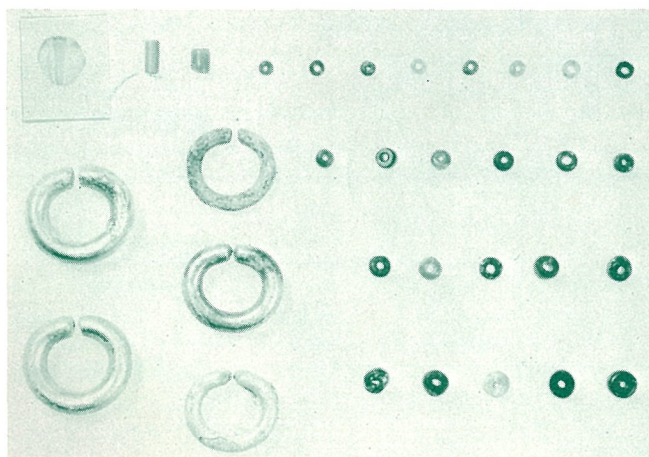
また、権威の象徴として造られていた前方後円墳も6世紀中頃を境にして造られなくなります。

那珂川町でも町内の平野部をとりまく山裾には、ほとんどといっていいぐらい古墳群が存在しています。なかでも東方の観音山古墳群では、260基に及ぶ古墳が確認されています。これらの古墳は、ほとんどが横穴式石室と呼ばれる石室を採用し、何回も使えるように造っています。従って現在の各家庭のお墓と、ある部分では共通する考え方ができ上がってくる段階とも言えます。

写真(25)は新幹線車輛基地の建設の際、調査された観音山古墳群中原Ⅲ群の全体写真です。(26)は古墳に副葬された耳輪、丸玉。(27)は中原Ⅱ群2号墳の石室内の様子です。



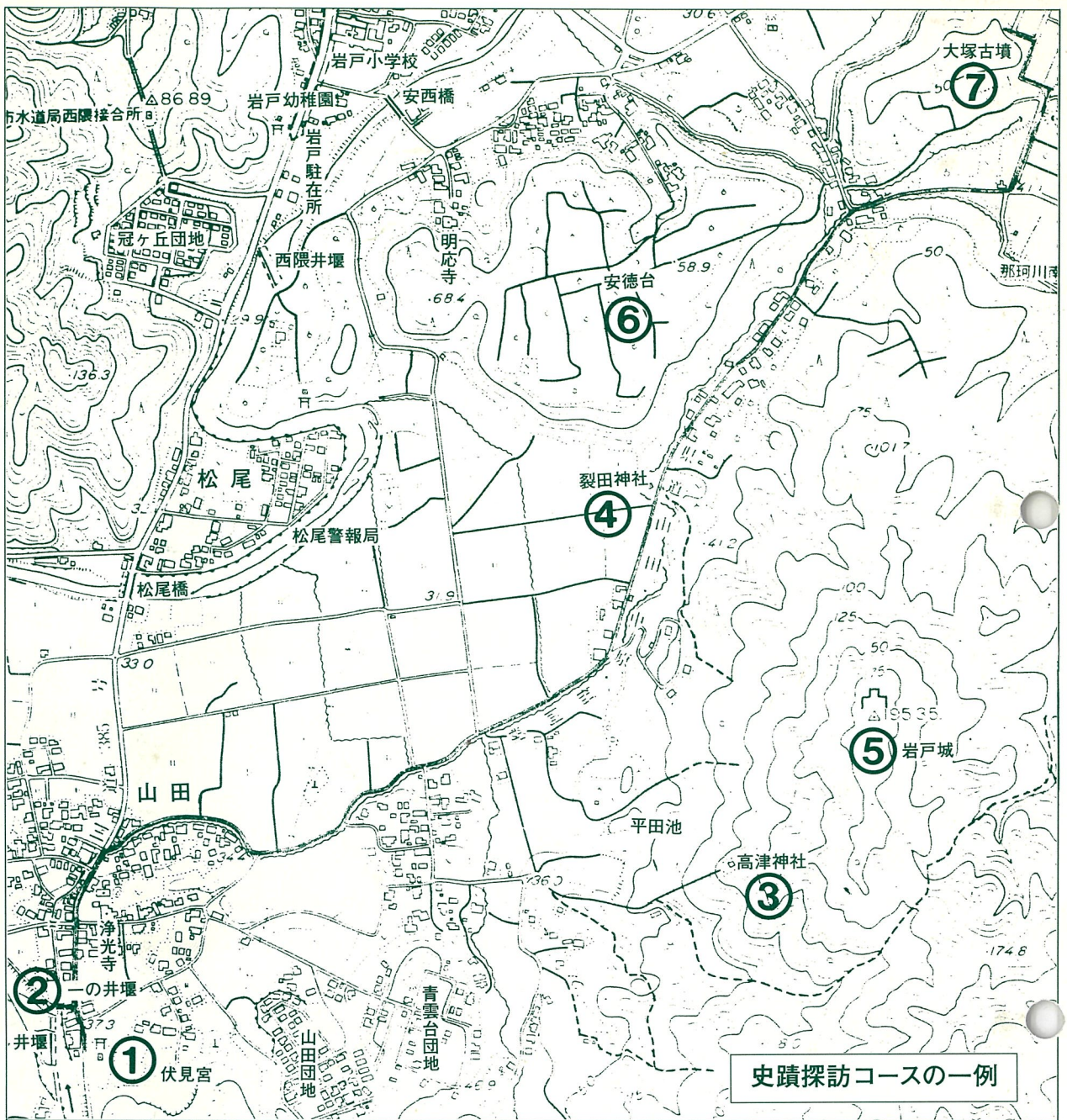
25



26



27



史蹟探訪コースの一例

山田バス 伏見宮 一の井堰 裂田溝 寺山田 裂田宮 溝の残りがよい 針口 安徳大塚
 下車 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)
 高津神社 岩戸城は 右手

○所要時間 徒歩2時間

昭和58年3月31日 初版発行

編集・発行 那珂川町教育委員会

印刷・製本 (株)大里印刷センター